

道の駅瑞穂再整備事業基本設計業務委託公募型プロポーザル 審査講評

日時 令和3年5月20日（木）

午前10時 開始

午後 4時 終了

場所 邑南町役場 第2委員会室

【選定委員会講評】

「12地区をつなぐ道の駅」をコンセプトとし、令和6年度開設を目指した道の駅瑞穂再整備事業において、これからの道の駅瑞穂は、従来の来客者や、農業振興により邑南町全域の生産者の満足度を高めるだけでなく、子どもや子育て世代などとの新しい関係を築いていくための多様な取り組みに対応する必要があります。

そのため、求められる建築は未来を考える地域づくりの拠点となるものです。様々なひとに対して温もりや親和性を創出するため、豊かな森林資源に囲まれた"邑南町らしさ"を再考し、その魅力をデザインに落とし込み、賑わいのある場所になることを願います。

本プロポーザルに対し8者からの提案があり、書類審査を経て3者の提案審査会を行いました。どの提案にも「建築の設計だけをすればいい」ということではなく、設計段階からたくさんの声を聞き、地域を巻き込み、ファンを増やしながら進めていきたいという運営側への共感が感じられました。これからの設計には従来よりもさらに、その建築に必要な要件を地域から抽出していくことが必要と考えます。設計者には運営とチームになり、共に事業を推進していく力が求められます。

第一位候補者として選定した一級建築士事務所 大西麻貴+百田有希/o+hの提案は、広い計画地の中で建築をコンパクトにまとめ、近隣住居に配慮しスペースをとった案でした。建築は公園にふわっと屋根をかけたような空間が提案されており、周囲に開かれた開口部からは邑南町の風景がこれまでと違った見え方でより魅力的に感じられることが期待できます。屋根は数枚の壁のみで支えられており、その柱のない空間は、毎朝限られた時間で出荷をいただく生産者に対し、また、車椅子やベビーカーの利用など様々な来客者に対し配慮されていました。また、これから色々な関係者を巻き込み建築を考えていくうえで、提案された構造や設備の考え方もシンプルで、様々な地域づくりの声に対する柔軟性があると感じられるものでした。

最後に、ご参加いただいた全ての提案者には、現在コロナ禍において世界が不安定な中、中山間地においてこれからの変化を乗り越えていく提案をいただき大変感謝いたします。